

研究課題 (テーマ)		遠隔講義に対応した医薬品工学実験プログラムの開発・試行・実施	
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	医薬品工学科	主任教授	米田英伸
	医薬品工学科		学科教員
研究結果の概要			
<p>医薬品工学科では、学部生を対象とした実習授業として2年生後期の医薬品工学実験1及び2と3年生前期の医薬品工学実験3～7を実施している。この度の新型コロナウイルス感染拡大により、大学における教育活動が制限されたことから、対面授業が困難な場合にも、対面授業と同等な教育効果を担保した実習を行っていく必要があった。そのため、実習内容を再検討し、遠隔講義のために新たに開発した実習プログラムを試行し、実施した。</p> <p>令和2年前期の3年生を対象とした医薬品工学実験3～7のうち、遠隔授業でも実施可能と判断した医薬品工学実験4、5及び7について、遠隔授業に対応した実習プログラムを新たに開発した。令和元年度に実施した実習内容を精査し、適宜改良を加えた実習テキストを新たに作成するとともに、教員が実習内容を実施し、その様子を録画、編集して視聴教材を作成した。これを学生が遠隔で視聴し、提示された実験データの解析等を行った。提出されたレポートの内容から、多くの学生が実験の目的・意義を十分に理解し、適切な考察を行ったと思われる。医薬品工学実験3及び6については、実施時期を後回しにして7月と8月に対面授業で実施した。令和2年後期の2年生を対象とした医薬品工学実験1及び2についても、対面授業で実施した。対面授業で実施したいずれの実験も、フェイスガード等を使用して感染防止対策を十分に取ながら実施した。</p>			
今後の展開			
<p>新型コロナウイルス変異株の感染拡大により、今後も大学における教育活動の制限と緩和の繰り返しが続くと予想されることから、令和2年度は対面授業で実施することができた各実験についても遠隔授業に対応した実習プログラムを用意しておく必要がある。今回、遠隔授業で行った実験についても、改善の余地があり、毎年検討を重ねていくことが重要である。</p>			